

◎達成できた ○やや達成できた △未達成

第3次和泉市地域福祉活動計画における事業実績 【5年間のふり返りと評価】

目標1 一人の「困った」をみんなの「良かった」にできるまちづくりを目指そう		
	事業目標	平成26年度→平成30年度にかけての実績・評価
		取組内容（実績）
1-① 地域の課題を定期的に話し合える協議の場づくり 1	各校区社協に「協議の場」を設置する	校区単位で説明会を開催し、協議の場の必要性を周知した。未設置の校区へは、中間報告会等を通じ、他校区の取り組みを紹介する等、立ち上げ支援を行った。
	「協議の場」の継続的な開催を支援する	地域の役員等が代わっても活動が引き継がれるよう、また活動が円滑に行われるよう、市社協職員や関係機関が参画し、議事進行を補助した。
	課題解決に向けた活動ができるよう支援する	協議の場にて挙がってきた課題を解決するための実践活動について、企画・立案を支援した。その結果、 <u>さまざまな新たな活動が生まれた。</u> （*14ページ参照）
1-② 地域における見守り体制の充実 2	小地域ネットワーク活動を推進する	活動の趣旨・目的の啓発を行い、サロンの立ち上げや運営支援を行った。年間で約56,000名もの参加があり、地域の見守りあえる関係性の構築につながっている。
	市社協が実施する各種見守り活動を推進する 3	サロンにおける見守り啓発や配食サービスの目的等、再啓発を行った。また地域で組織される見守りネットワーク会議へ参画した。
1-③ 総合的な在宅福祉サービスの充実	個別支援と地域支援の部署間で連携する	個別支援を行う部署（在宅福祉課、高齢障がい支援課）と、ケースを通して情報共有、連携を図り、支援体制を強化した。

		第4次への引き継ぎ	
数値実績	評価		
目標：21 校区 ↓ 実績：21 校区	◎	協議の場は、地域課題を検討する中心的な役割であるとの認識のもと、今後も具体的な実践活動を創出できるように、また校区内引き継ぎをしっかりと行えるように支援していく必要がある。校区によっては、協議の場の運営そのものについても、継続していけるよう支援する。	
目標：21 校区 ↓ 実績：21 校区	◎		
目標：21 校区 ↓ 実績：12 校区	○		
目標：サロン増設 165 か所 ↓ 実績：172 か所	◎	引き続き、趣旨啓発ならびに運営の支援を行っていくとともに、特に参加者減少等の理由で休止するサロンが出てきていることから、継続実施できるよう助言・支援を行う。	
実績：65 回	◎		
—	◎	定期的な情報共有を行い、更なる連携を深める。	

目標2 安全 安心に暮らせるようにみんながつながり支え合おう		
	事業目標	平成26年度→平成30年度にかけての実績・評価
		取組内容（実績）
2-① 地域の福祉防災力の向上	地域ぐるみの防災訓練や研修が実施できるよう支援する	協議の場にて「防災」をテーマに検討、ならびに校区別防災訓練や研修の実施を支援した。
2-② 災害時に即応できるボランティア支援体制の構築	災害時ボランティア登録制度創設に向けた研修を行う	災害ボランティアセンター運営マニュアルの整備とともに、台風21号災害を受けて、災害ボランティア窓口を実際に立上げ、運用した。
	ボランティアリーダーの養成に関する研究検討を行う	
2-③ 地域情報の収集、共有、発信	校区での福祉情報発信のための新聞等の作成を支援する	情報や活動を周知するための広報活動費（PR 補助金）を校区社協へ助成した。福祉活動やボランティア募集の周知ができたことにより、新規ボランティアの登録につながった。
	防犯に関わる各種取組の情報収集及び連携を図る	いきいきサロンや年輪大学講座における消費者被害防止啓発を行った。

		第4次への引き継ぎ	
数値実績	評価		
目標：適宜 ↓ 実績：のべ15回	◎	地域での取り組みに加え、市社協としてマニュアルの改訂や、必要な準備について検討を行う。特に、災害時ボランティア登録制度については、台風21号災害時に重要性を再認識したことから、早急に整える必要がある。	
—	△		
目標：21 校区 ↓ 実績：12 校区	○		
実績：のべ21回	○		

◎達成できた ○やや達成できた △未達成

目標3 一人ひとりのチカラを地域で活かそう		
	事業目標	平成26年度→平成30年度にかけての実績・評価
		取組内容（実績）
3-① 福祉教育・市民学習の推進	福祉教育を実施する	小学生向けに福祉きっかけ講座や校区社協ボランティアによる講話、福祉体験学習を行った。また、校区社協向けに認知症サポーター養成講座への参加調整を行った。
	市民学習を推進する	年輪大学・年輪大学院にて、ボランティアについての講座を開催した。また、校区でのボランティア体験への参加調整を行った。
3-② ボランティアの育成、新たな住民層の参加拡大	ボランティアの担い手を増やすための養成講座等を充実させる	ボランティアの楽しさ等魅力を伝えるポイントをテーマとした講座を開催した。また、アイ・あいロビーにてボランティア入門講座や、年輪大学院にてボランティア基礎講座や福祉体験を行った。
3-③ 関係団体・関係機関との連携	協議の場等を通じた情報交換とデータを集積させ活用する	データ（地域情報）の集積を可視化し、専門職で共有した。

第4次への引き継ぎ		
数値実績	評価	
年10小学校 校区社協8か所	◎	福祉の心を育む全体的な福祉教育の拡大実施。受講した人が、何らかの地域活動へ参画してくれるよう、テーマを幅広く設定し、活動のきっかけを作る。
年輪大学:年22講座 年輪大学院:年20講座 ボランティア体験:年8回	◎	
校区社協ボランティア 52名増員 アイ・あいロビー 登録ボランティア 837名増員	◎	
21校区	◎	

目標4 SOSをキャッチしてつなぐしくみを充実させよう		
	事業目標	平成26年度→平成30年度にかけての実績・評価
		取組内容（実績）
4-① 総合的な相談支援体制の充実	相談窓口を周知させる	広報「社協いずみ」やホームページを刷新し、各相談窓口をわかりやすく紹介した。
4-② ニーズ発見のしくみづくり	小地域ネットワーク活動の推進ならびに多機関と地域とを連携させる	見守りネットワークの構築に向け、地域で看過されているニーズに気づき、必要に応じ適切なところまでつながるしくみを協議した。また相談窓口として市社協の他、地域包括支援センターやいきいきネット相談支援センターと地域が連携し合えるように、関係調整を図った。
4-③ 福祉情報の提供体制の充実	職員の専門性を生かした出前講座を開催する	社会資源の一覧表を作成し、サロン代表者へ配付した。

第4次への引き継ぎ		
数値実績	評価	
目標:年17回 ↓ 実績:年17回	◎	市社協の各部署だけでなく、関係機関も含め総合的に周知し、地域からの相談がスムーズにつながる体制を強化する。
目標:2校区 ↓ 実績:2校区	◎	
—	◎	